



文は信なり

日本クリスチャン・ペンクラブ（略称JCP）発行・責任者 池田勇人
 事務局 〒131-0043 東京都墨田区立花4-6-13 三浦喜代子方
 T EL&FAX 03-3616-8621 郵便振替 00170-0-161838
 ホームページアドレス・<http://jcp.daa.jp>

主を喜び、主に喜ばれて 理事長 池田勇人

JCP創立55周年の集いを終え、60年に向かう中で、今年は「主を喜び、主に喜ばれて」をテーマに、心を一つにして前進いたしましょう。

ネヘミヤ8・10は、翻訳聖書で微妙に違っています。「主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力」(新共同訳)、「あなたがたの力を主が喜ばれる」(新改訳)：少し曖昧なのが「主の喜びはあなたたちを支える力」(バルバロ訳)です。喜ぶ主語が人間なのか、それとも神様なのかによって、意味が違ってきてしまいます。

つまり、バビロン捕囚から開放されたユダヤ人たちが、ネヘミヤの指導と励ましで主を喜ぶ霊性が整えられたと理解するか、城壁再建で心を一つにしたことを主が喜ばれていらつしやると理解するか…。

この紙面では、どちらにするのかという論及ではなく、両者を生かしてペンの業に応用したいと願います。

①城壁再建は、まずネヘミヤの祈りから始まりました。(1・13～14)

城壁は外的から命を守り、かつ内側の心を一つにするものです。荒城のままでは敵が自由に入ってきて、中をかき乱してしまいます。彼は、見えない祈りの城壁から手

を付けたのです。

②城壁再建は、調査(2・13～15)・使命目標の確認(2・17～18)・一致協力(3・1～4、6)・妨害への対策(4・9、20、22)という手順で、手際よくなされてゆきました。

③それはネヘミヤが、民にやる気を起こさせる知恵を持っていたから(4・6)です。

④城壁再建は、主を喜ぶ生活の再建でもありました。(8・10)

キリスト信仰は基本的に、人を束縛するものではなく、自由と喜びを与えるものです。親が子の存在を喜び、子も親を喜ぶという相互作用に似て、主は私たちを喜び、私たちも主を喜ぶという関係を回復してゆくことが、今閉塞感に苦しむ日本の教会に必要なことではないでしょうか。「力」と訳された言葉は、元々逃れるという動詞から派生したもので、皆とも訳されるものです。主を喜ぶことこそ、民の城壁再建なのでした。

今日ペンを握ってあかし文の一つ紡いでゆく。それが、日本の教会の城壁再建のレンガを一つ積み上げてゆくことになるのだと、霊的想像を豊かにしてゆきましょう。

祈りから始まり、主を喜びつつレンガを積んでゆく。

さあ、ご一緒に、楽しいですよ。

柔らかな感受性と良心の心がめ

芥川龍之介のなかの神

大田正紀

わずか三十五歳で睡眠薬自殺を遂げた芥川龍之介であるが、その文芸の根底には、聖書の示す神との対話があり、深い内省がある。

たとえば、『赤い鳥』に発表された「蜘蛛の糸」は、お釈迦様とカンダタの、一本の糸をめぐる話である。強盗に人殺しまでしたカンダタが、ただ一度、踏みつけようとした蜘蛛を思いとどまっていたのちをなからえさせた、その報いに極楽の池のほとりから蜘蛛の糸をたらす。みつけたカンダタがしめしめと上がってくる。するとそのあとをほかの罪人たちがゾロゾロついて来るではないか。思わずカンダタは叫んだ……。

お釈迦様はいったいどこまで本気で助ける気があったのか、善意・救済・エゴイズム。いまでも中学生たちが教材で触れ、つまづくテーマである。傍観者のような表情のお釈迦様の向こう側に、切れた糸を見

詰める芥川の悲しみがある。

出典は、ドストエフスキイの『カラマーゾフの兄弟』のなかの「二本の葱」の説話。性悪のお婆さんが亡くなって煉獄の火で焼かれて苦しんでいるのを目撃した守護の天使が、思い切って神に訴え出て、お婆さんの生前のただ一つの善行である、餓えている人に差し出した葱一本を差し出して、燃えさかる火から救い出そうとする。ところが、みんながお婆さんにしがみつく、やはり叫んでしまう。

ほかにも、ポール・ケーラスの『カルマ』をトルストイが翻訳したもの、鈴木大拙が翻訳した『因果の小草』の説もある。宮坂覚氏は、芥川の蔵書にラーゲルレーヴの『キリスト伝説集』の英訳本があり、脱稿後、『わが主とペテロ』との酷似に龍之介が驚いていることを紹介している。さまざまな苦難ののち天に上げられた聖ペトロがそこに母がいらないのに気がつく。ペトロの母は金の亡者であったから、地獄の奈落の底にいた。ペトロの悲しみを察したわが主は、一人の天使に地獄に下がって救うように言うが……。

芥川は一高時分から、親友の恒藤恭に連れられてドイツ大使館付の牧師の許に通い、

聖書を学んだ。結婚問題で義父母や伯母と対立した時の手紙には、「イゴイズムをはなれた愛があるかどうか。イゴイズムのある愛には、人と人との間の障壁をわたる事は出来ない。人の上に落ちてくる生存苦の寂寞を癒すことは出来ない。イゴイズムのない愛がないとすれば、人の一生ほど苦しいものはない。」と綴る。自らのエゴイズム(利己主義)に苦悩する文芸の登場である。

晩年、芥川は『歯車』やキリスト伝『西方の人』を書いた。

しかし、柔らかなところで人と接し、神の前に良心の心がめを感じていた芥川の真骨頂は、案外児童文学の『白』のような作品にあるように思う。友人の黒犬を見殺しにした白は、黒くなってしまい、追われて放浪する。

日本各地で自己犠牲に満ちた奇跡の犬の報道が頻出する。「わたしの罪を贖ってくださいる主はどこにいるのか。」

(梅花女子大学 教授)

出直し・あかし文章講座(2)

池田 勇人

問 書いたものがそれで本当に良いのか、どのようにチェックしたらよいでしょうか。

答 時間を置いて次の日読み直すこと。できれば声に出して・・客観的・冷静に見直すことができます。

でもなかなか自分の癖には気が付かず、直りにくいものです。そこで自分の信頼できる方に、チェックしてもらおうのも良い方法ですね。その際、「より良いものにしたかったので厳しくチェックを」とお願いすることです。直されて、初めて自分の悪文に気付くとしたら、なんと幸いなことでしょうか。

ですから直していただいた上は、プライドが多少傷ついて感謝しましょう。誰でも人のものを直すなんてやりたくないことです。「変な風に悪くした。私の本意が分かっている」と逆恨みするのはやめましょう。いつ自分が直す立場になるか分からないのですから。

他人に頼んだのであれば、時には菓子折り一つと共に礼状を、ほどの配慮が欲しいですね。

そういう方は 上達が早い！

中部ブロックの近況と計画 坂口 良彬

2月16日(土)に、2008年第一回の例会を開催した。玉木師以下7名が、それぞれの作品をめぐって盛り上がり、会員のやる気がひしひしと感じられた。

2000年には、既に会員であった野口忠彦さんが復帰され、にぎやかになった。

読書会は、遠藤周作の「深い河」を終え、本年は、三浦綾子の「銃口」を読むこととなった。目次に従って、三小節ずつ読んでいくことにした。文集『屋根』は、ページ数、部数が多すぎるため、本年は、多少簡素化したものを作る予定である。

また、本年は夏期学校がないため、会員の中から提唱された「文章の一日研修会」を実施しようと思っている。

関西ブロックの近況(『関西ペンの声』13号より)

関西研究会は今 その3 前山英子

2007年後半の研究例会は9月8日に吹田市民会館で、11月10日は日本キリスト教団大津教会で行なわれました。

キリスト教文学作品の学び

『奉教人の死』 芥川龍之介

『風立ちぬ』 堀 辰雄

関西は久保田暁一先生、大田正紀先生、今関信子先生、奥村直彦先生と贅沢なほどの先生方に恵まれています。

関東ブロックの近況

- ☆ 関東では、定例会を奇数月の第四土曜日にお茶の水クリスチャンセンターで行なっています。内容は池田勇人理事長（牧師先生）のメッセージで礼拝をします。そのあと、学び会に入ります。06、07年は『私の文章活動』シリーズで、会員がかわるがわる自分のあかし文章活動を報告しました。不定期に、あかし文章の書き方を学んでいます。
- ☆ 08年は『わたしの遺言』シリーズをスタート。順次会員が原稿用紙3枚ほどのあかしをし、後日作品集を発行する計画です。
- ☆ 偶数月は『小さな集い』として、『詩歌の集い』と『童話とエッセーの集い』を同時に分れて開いています。それぞれに作品を持ち寄って講評しあい、学びあいます。詩歌の集いでは第一号の作品集を作成しました。
- ☆ 童話とエッセーの集いでは、昨年は文学散歩を計画、柴又から矢切の渡しで江戸川を越え、野菊の墓の碑まで行ってきました。
- ☆ 今年も東京を離れて一泊研修会をしたいと希望が出ています。

本部事務局便り

- ★ 昨年の55周年の集いには各ブロックから多大なご協力をいただき、盛大に楽しい記念の時を過ごすことができました。あらためて感謝申し上げます。2008年は60周年と向けていつそう力強い歩みをしたいと願っています。
- ★ 今年は『あかし新書』発行の予定です。課題は昨年のテーマ『愛すること 赦すこと 平和を求めて』です。未提出の方はお急ぎください。詳細は所属ブロック事務局でお尋ねください。
- ★ 08年の本部年会費を納入してください。神様からの使命、あかし文章活動を広く伝えるために、皆様の会費が用いられています。
- ★ 最近出版された会員の作品
東畑忍兄あかし集『後になればわかる』
三浦喜代子姉童話集『童話を愛して』
お入り用の方はご本人までご連絡を。
4月からキリスト教放送局FEBBCで一年間、三浦姉の著書が朗読されます。
- ★ JCPのホームページをぜひご覧ください。あかし新書の皆さまの作品が公開されています。

2007年会計報告書

2007年1月～12月

収入		支出	
前年繰越金	257,119	文は信なり・2回	38,000
年会費	240,000	発送費	18,430
入会金 3名	5,000	広告宣伝費 * 1	52,225
献金	15,000	理事会諸費	29,478
		事務消耗品費	14,510
		事務局通信諸費	60,000
		ホームページ管理料	13,230
		次年度へ繰越金	291,246
合計	517,119	合計	517,119

* 1 広告宣伝費は百万人誌、情報ブック

2008年3月29日

会計 三浦喜代子 山本披露武
監査 駒田 隆 長谷川和子

◎2007年のJCP本部会計を先のようにご報告します。

編集後記

桜花愛でる喜びの季節になりました。今年も各ブロック活動がいつそう充実しJCPの理念『あかし文章を、読み、書き、学び、広める』働きが祝されますように。本誌『文は信なり』が各ブロックを一つ結ぶペンの絆になりますように。(三浦)